

町民が集い、語り、創作する、丘とともにある体験交流施設

熊野町の持つ多様な環境や資源そのものを地域のシンボルとすることを提案します。

周囲を山に囲まれた高原状の盆地である熊野の斜面地に呼応し、根をおろす「丘」のような建築をつくります。この熊野の丘を交流と創造の中心として、豊かな町、人、自然の風景を将来に継承していくことを目指します。

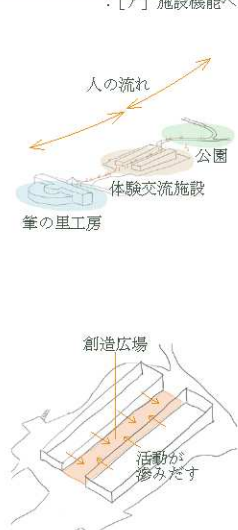


特に重視する設計上の配慮事項

□市民の「創造」の姿を中心とする

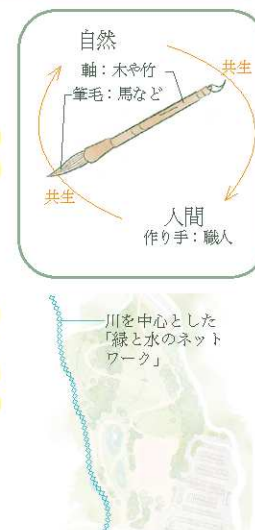
・建物の中心を通る**創造広場**が、筆の里工房からの人の流れを遮ることなく公園へと誘導し、筆の里工房と体験交流施設、公園の一体利用を実現し、**創作活動を敷地全体に拡張**します。
 (→P3「創造広場による連携の強化」)

・**体験学習などの活動が創造広場にしみ出すこと**により、多様で活発な創作を生み出します。また、**創造広場が機能を兼ねることや土間にすること**によるコスト面の配慮も盛り込んだ計画とします。
 (→P2「創るを拡げる創造広場」)



□豊かな自然と共生する

・熊野の筆は様々な動物の毛や木や竹など自然由来の材料に、職人の手を加えて作られています。筆に凝縮された**自然と人間の共生のありかたを再解釈し、設計に反映**します。
 ・「水と緑のネットワーク」の軸上にあるため、**土壌環境の改善やバイオトープの計画**を行うことで豊かな生体環境を作り出し、その自然を感じ、出会うことのできる外構計画とします。
 (→P3「遊びと創作が広がるランドスケープ」)



□地域を繋げる

・様々な人や情報・イベントなどが創造広場に集まることにより、**この建築が地域の新たな拠点となり、熊野町の新たな居場所として機能**します。(→P3「熊野町の新たな拠点として」)

・豊かな自然とふれあい、創作し、遊ぶ建築/ランドスケープデザインとすることで、**子連れの家族や児童にとって過ごしやすい環境**をつくり、熊野町の子育てや教育を手助けします。(→P3「遊びと創作が広がるランドスケープ」)



□景色に溶けこむ

・町の中心地から赤穂峠まで続くおおらかな斜面地に呼応する弓なり状の屋根を持つ「丘」のような建築とします。
 ・周囲の**豊かな自然を尊重し、建築のボリュームを抑えたデザイン**とします。
 ・建築の圧迫感をなくし、**なじみやすい優しい建築**とします。
 (→P3「自然を尊重した外観」)

・屋上の展望デッキからは熊野町の美しい景色を一望でき、来訪者に熊野町の魅力を伝えます。(→P3「駐車場からつながる展望デッキ」)



コスト管理に関する工夫

□合理的な建築計画

・建物を平屋にし、諸室の機能を創造広場と兼ねることで適切にコストを削減します。
 (→P2「合理的な平面計画」)

・使用する構造材には**一般流通材**を使い、仕口なども**一般的なプレカット**で対応できる形状を基本とすることでコストを抑えます。また、敷地の斜面に合わせて、**長手方向の基礎レベルに段差を設ける**ことで、**土工事や基礎工事のコスト削減に配慮**します。(→P2「構造計画」)

・木造形式と一般流通材の採用に伴い、**建物の寸法を寸尺体系とすることで、一般製材の木材の利用や内装仕上げ材における材料の無駄・余材を省くことでコストの低減を図ります**。

・パッシブデザインを取り入れると共に、**建物の熱所得を下げる工夫**をすることで、**中間期の空調負荷を抑えます**。屋上への**太陽光パネルの設置による平常電源のバックアップや、雨水の中水利用**などの工夫も盛り込み、**LCCを可能な限り削減**します。(→P2「環境計画」)

□積算チームとの連携

・積算チームを専門技術チームに取り込むことにより、**密な連携を可能にし、基本設計/実施設計のフェーズごとに積算を行い、常にVE検討を考慮しながら設計を進めます**。

□自然を生かしたランドスケープ

・切土と盛り土のバランスを考慮し、**処分残土を減らすことでコストを抑え、既存の植栽や構造物の継続利用も視野に入れた計画**とします。
 (→P2「切盛を最小化したランドスケープデザイン」)

□建物の長寿命化と施設管理の簡便化

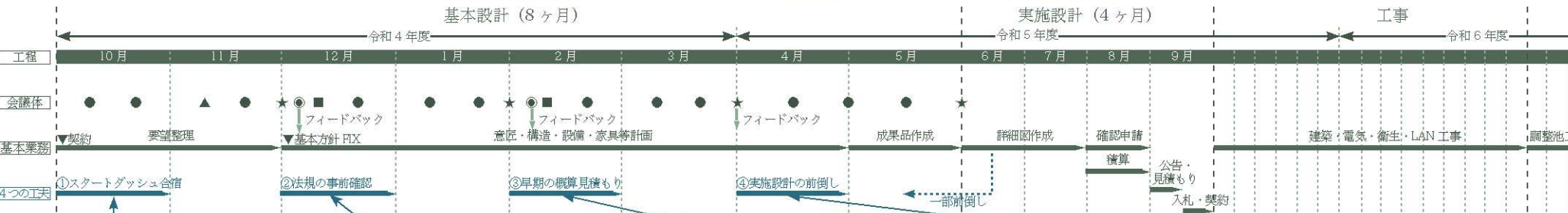
・建物外周に底を回すことによる**ガラス面の掃除の簡便化や、メンテナンスが容易な材料の積極的な採用**により、**日常的な施設管理のコストを抑え、建築の長寿命化にも貢献**します。

・**防汚性、耐久性のある内装材やLED照明の採用、Low-Eペアガラスの採用**により、**長寿命化と維持管理コストの削減に貢献**します。

業務の実施方針および管理方針

□先行型基本設計

・タイトな設計スケジュールの中で計画を実現するために**基本設計期間に4つの工夫を用いて、実施設計後の後戻りを少なくする工程計画**とします。



①スタートダッシュ合宿
 キックオフからの数日間、熊野町に泊まり込み、設計チームと町担当課、関係者で集中的に話し合いを行います。それにより課題の早期明確化と条件の共有を行い、その後の設計業務の効率化につなげます。

②法規の事前確認
 関連法規による本計画の条件や構造的な条件等、確認申請機関に事前確認を行うことにより実施設計時の後戻りのリスクを軽減します。

③早期の概算見積もり
 基本設計中に概算見積もりを行い、コスト状況を早めに確認します。概算案の検討時期を早めることにより、実施設計時の後戻りのリスクを減らし、先行することによる見積もり期間の短縮も図ります。

④実施設計の前倒し
 各諸室の諸元表の随時作成・共有や特殊な諸室の早期使用検討、仕上げ表や機器配置の早期検討、構造・設備・機械との取り合い検討など、実施設計作業を前倒しで行うことにより、短い実施設計期間に対応します。

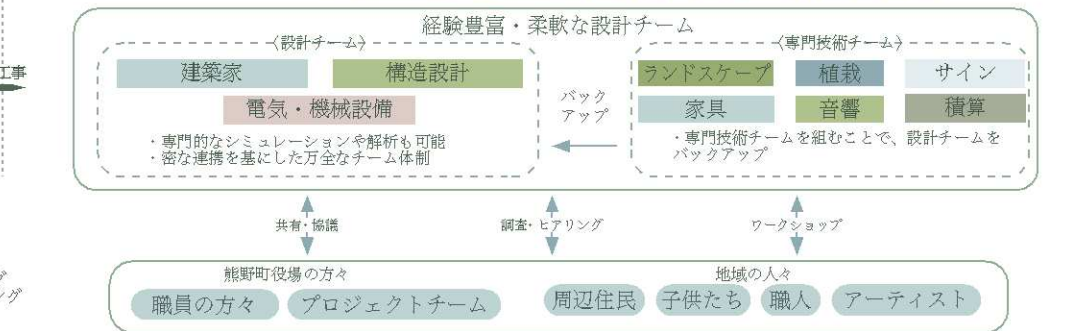
取組体制・設計チームの特徴

・監理技術者は子供や学生とのワークショップ経験も豊富なため、その経験を活かして子供から大人まで様々な意見を取り入れて設計に反映し、**地域の方々と共に計画を進めていきます**。

・市役所の方々と交えた丁寧な調査・ヒアリングを行い、**問題発生や手戻りを事前に防ぎます**。

・設計チームに加え、**ランドスケープや音響などの専門技術チームによるバックアップ体制を整え**、熊野町の豊かな自然と調和しつつ、様々な創作活動を不自由なく展開できる環境を実現します。

・予算内での実現のため、**設計チームは積算チームと一体になって徹底したコスト管理**を図ります。

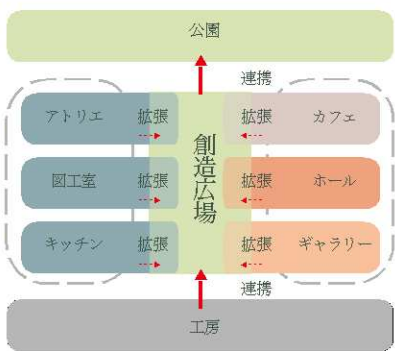


【凡例】
 ●設計定例会議
 ★デザイン会議
 ●市民・利用者ワーキング
 ■職員・スタッフワーキング
 ▲視察

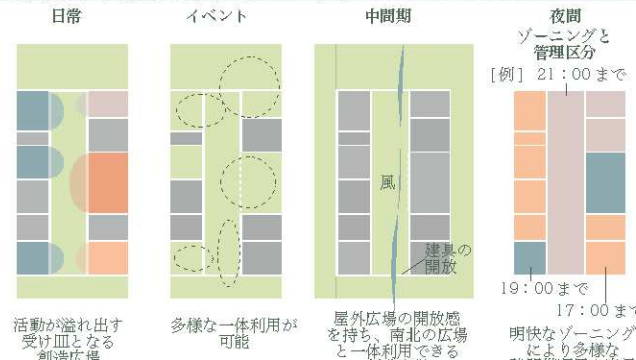
■【ア】 施設機能

□「創る」を拓げる創造広場

- 施設の中心を南北につらぬく「創造広場」を作ります。面する諸室の活動がにじみ出す、様々な創作活動を許容するおおらかな賑わいのある公園のような大空間です。
- ホールや体験学習施設は創造広場に開放し、一体利用することで、創作時の使い方、見せ方を多様にし、創造力を拡張します。
- 創造広場をささむように面する2つの体験学習室を一体的に利用するなど、東西方向への人の流れも生まれる明快な平面構造です。



□季節や状況に応じたモードチェンジ



□創造広場と各室の関係



■【エ】 経済性・実現性

□既存を生かすランドスケープデザイン

- 切盛土量を調整して残土の場外搬出をなくすことで、残土処分費用を削減します。
- 造成前に表土を保全して造成後に再利用します。
- 南側道路沿いや駐車場予定地の既存樹林を、造成計画が許す範囲で保存し活用します。

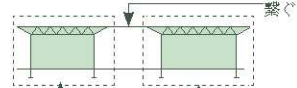
□合理的な平面計画

- シンプルな平面形状かつ（原則）平家にして設計予条件の合理化を図ることで施工性を向上させ、工期短縮、建設後の維持管理コストの削減につなげます。
- 体験学習やホールの機能の一部を創造広場と兼ねることにより、延べ床面積を適正に減らすことも視野に入れた設計を行います。

□構造計画

○屋根の繋ぎ方について

2つのボリュームをつなぐ創造広場屋根は、水平構面として建物全体を動かさずながら、両側のトラスを連続させて方杖状の片持ちトラスとすることで、一般流通材を“つなぐだけ”で10.0m スパンを無理なく支持することを可能としています。



○建物構造について

- 木造平屋部分が大部分であり建築面積が大きいこと、建物重量のほとんどが屋根、壁自重であり軽量であることから、経済性を考慮して布基礎（地盤状況によっては地盤改良併用）とします。半屋外の創造広場は外構に準じた扱いとして基礎は配置せずに一部繋ぎ基礎を設けます。
- 敷地が緩やかな斜面となっているため、長手方向に基礎レベルに段差を設けることで、土工事や基礎工事のコスト削減、工期短縮に対して配慮しています。

2つのボリューム

○建物構造について

- 木造在来軸組工法で計画します。要求される機能、面積などから、比較的大きな天井高、スパンが必要になりますが、トラス梁、繋ぎ梁などにより、特殊材を使わずに構造フレームをつくりまします。
- 使用する構造材は経済性を考慮して、住宅でも使われている一般流通材を使い、仕口なども一般的なプレカットで対応できる形状を基本とします。トラス梁も特殊金物は使わずにできるだけ一般仕口と金物で組み立てます。
- 地震力を負担する耐力壁は構造用合板を基本としますが、開口や周辺空間の連続性や外部眺望を取り入れる部分はブレースによって、耐震性の確保と合わせて意匠性、機能性の両立を図ります。

□環境計画

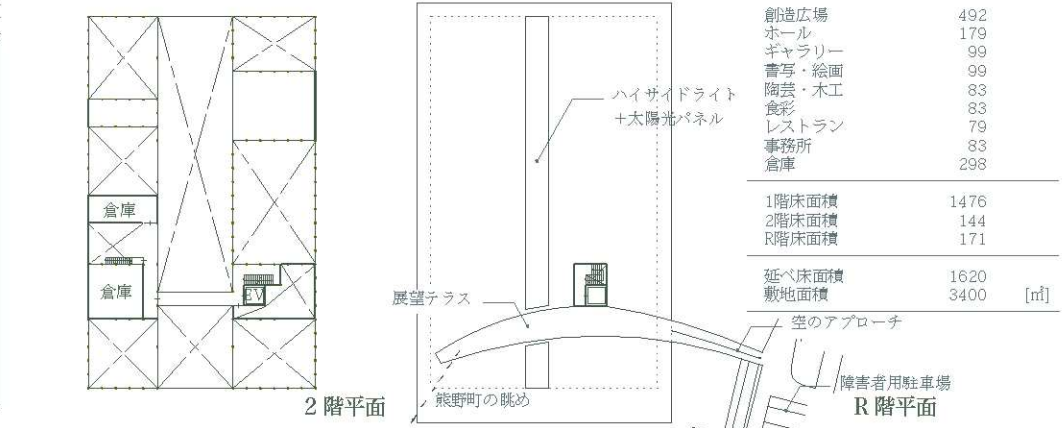
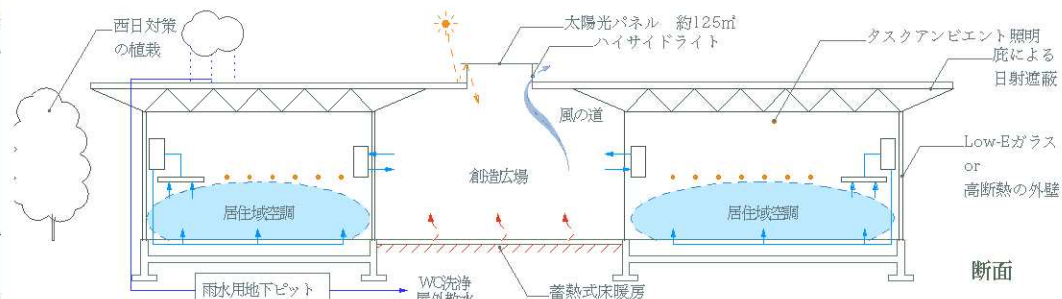
○半屋内⇄屋内の環境的モードチェンジで快適性を実現する省エネルギーな創造広場

創造広場とその両端の個室群で最適な空調とすることで、季節や使われ方に応じて最適な室内環境を作ります。

○熊野町の気候風土、建物形状を生かしたエコ建築

熊野町の卓越風による自然換気の促進、大きな庇や植栽による日射遮蔽などのエコアイテムを積極的に活用し、LCC削減に努めます。

パッシブ	空気層として夏季の熱取得 中期 ハイサイドライト	居室の居住域空調と両端の部屋を空気層として利用し、最低限の空調設備とする。 日射遮蔽に留意し、建物周囲の伸びる庇、西側の植栽・Low-Eガラスによって熱取得を最小限とする。 中期は温度差換気を活用した風の道をつくり、空調負荷の低減を図る。 ハイサイドライトからの自然光を積極的に活用し省エネを図る。
アクティブ	居住域空調 蓄熱式床暖房 アンイベント照明 タスク管理 高効率照明 雨水利用	体験学習室等の個室は居住域空調を行い、効率的かつ省エネルギーな空調を実現する。 創造広場の蓄熱式床暖房は深夜の電力を利用して床スラブを加熱・蓄熱して昼日に放熱する床暖房方式。 昼間は放熱のみであるため暖房効果と消費電力ピークを低く抑える低電圧気化を実現できる。 日中はハイサイドライトとアンイベント照明によって明るさを確保。 タスク管理をすることで明るさが必要な作業などに対応。 高効率 HP 照明、LED 照明を採用。人感センサーによる点滅。 屋根面に降った雨水を地下ピットに貯水し、トイレの洗浄水や屋外散水などに利用。
再生	太陽光	屋根に太陽光発電パネルを設置し、日中の消費電力の省エネを図る。
長寿命化	長寿命化	LED 照明・銅板製一体型受水槽などの高寿命機器・材料を採用。



創造広場	492
ホール	179
ギャラリー	99
書写・絵画	99
陶芸・木工	83
食彩	83
レストラン	79
事務所	83
倉庫	298
1階床面積	1476
2階床面積	144
R階床面積	171
延べ床面積	1620
敷地面積	3400 [㎡]

まちの図工室

書写と絵画を行うことができる図工室は公園と調整池に面しており、活動を屋外に展開することも可能です。創造広場は土間コン等の汚れに強い床とし、普通パフォーマンス体験などの汚れによって散逸されがちな活動も思い切って行えます。すぐ横に更衣室も用意されているので、着替えも可能です。



各体験学習室等で積み込む配置とし、両側からのニーズに応じて取引量の調整が容易です。2階に部分的に増床して倉庫を増やすことが可能です。

まちのアトリエ

陶芸と木工が出来るアトリエは音や汚れなど、気になるものに応じて部屋を閉め切る、創造広場に展開する、外に出るなど、様々な使い方をすることで自由な活動を可能にします。図工室同様、汚れた場合はすぐ横の更衣室で着替えが可能です。



ウェルカムカウンターから施設全体の視認性を確保します。執務スペースを中心にコンパクトな事務室として、作業効率を高めます。小荷物専用昇降機の設置も検討可能です。



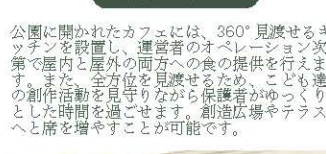
まちのキッチン

普段は料理教室などを行うまちのキッチンはマルシェや産直市の開催やキッチンカーとの連携など、様々なイベントと連携し、食の活動拠点として機能します。縦に連なれ、調整池を望むテラスを活用しながら、町民の特別なパーティ開催も可能です。



まちのカフェ

公園に開かれたカフェには、360°見渡せるキッチンを設置し、運営者のオペレーション次第で屋内と屋外の両方への食の提供を行います。また、全方位を見渡せるため、こども達の創作活動を見守りながら保護者がゆったりとした時間を過ごせます。創造広場やテラスへと席を増やすことが可能です。



まちのホール

約100席の可動式座席、約100席のスワール席を使い分けることで、安価にさまざまな使い方に柔軟に対応します。

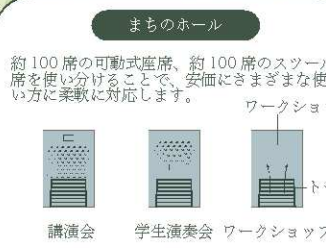


まちのキッチン

マルシェ開催、キッチンカー

まちのギャラリー

まちのギャラリーには作家の作品のみならず、筆の里工房やこの建物で作った作品、学校で作った作品などを展示することが出来ます。豊富な倉庫スペースと可動間仕切りにより、フレキシブルでダイナミックな展示が可能です。



まちのキッチン

キッチンカー（電源、給排水設備を設置）産直市、マルシェ、読書会など

まちのキッチン

休憩ライブラリー
事務室の前には休憩ライブラリーを配置し、まちの情報、読書コーナー、子育てに関する書籍の設置（町民図書館から配架）により、こどもの創作活動を見守りながら、保護者同士の交流や情報交換が行われる場となります。

まちのキッチン

町民が期間限定のチャレンジャーズショップを開くことが可能です。

まちのキッチン

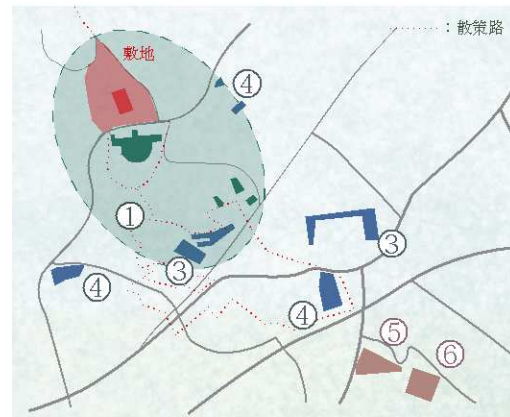
重い荷物はEVで搬出入可

■ [イ] 連携機能

□熊野町の新たな拠点として

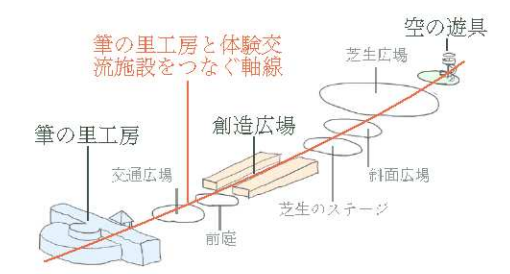
・周辺の様々な施設との連携を可能にし、町民のみならずが自然に集まり様々な人や情報、活動と出会う新たな熊野町の拠点として機能します。

[周辺施設との連携の具体例]



- ①筆祭り 筆祭りのメインイベントスペースとして機能。
- ②飲食店や商店 商品の販売やセール情報の掲示、創造広場や三角広場にトラックを入れてマルシェの開催など。
- ③学校（熊野第一小・熊野中） 体験学習やフィールドワーク、美術部の活動など、学生の様々な創作・学習に利用。
- ④公園 公園のイベントや遊び場・遊び方の情報発信。自然の生き物や植物の知識を掲示。
- ⑤町役場 情報掲示板やコンシェルジュで町の雇用やボランティア、子育て支援の情報を発信。
- ⑥町民図書館 出張図書館やブックフェアなどのイベントの開催。筆にまつわる本の配架。

□創造広場による連携の強化



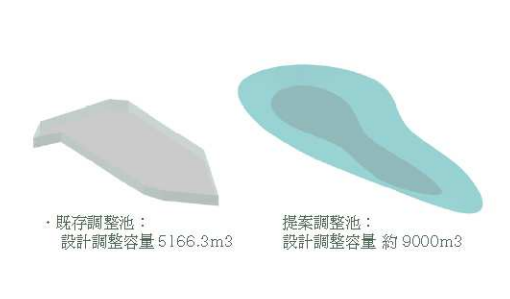
- ・建物の中心を通る創造広場は、筆の里工房から公園に向けての人の流れを遮りません。それにより、筆の里工房と体験交流施設、公園と体験交流施設のそれぞれの連携だけではなく、3つが軸線上に並び、一体となった連携利用を実現します。
- ・創造広場に溢れ出した活動が人の流れに乗って敷地全体に広がっていく全体計画とし、敷地全体に創作のきっかけや場を点在させます。
- ・軸線に沿うように、環境や用途の異なる広場・屋外空間をちりばめます。

□木々を縫うように進む「森のアプローチ」



- ・南側の道路沿いの既存地形と樹木は造成計画が許す範囲で保存し活用します。木々を抜けた先に建物が見えるようにすることで、車道側からの外観を自然に溶け込ませ、熊野町の風景に違和感のないようにします。
- ・森のアプローチに、筆の里工房の散策路を延長するように引き込み、北側のゆるぎ観音へと誘導します。建物の機能だけではなく、周辺の豊かな環境との連携も図ります。

□グリーンインフラの形成



- ・雨の道、雨の庭から調整池までを一體的にデザインして、グリーンインフラを形成します。
- ・調整池は常に水が溜まっている状態にし、ローウォーターレベルにビオトープを形成します。この豊かな水場は周辺の生体環境の中心となり、鳥や虫、爬虫類や両生類など、さまざまな動植物が集まる姿を眺めることができます。
- ・増水時の十分な貯水能力を見込んだハイウォーターレベルを設定し、調整池としての機能を損なうことなく豊かな生体環境を実現します。

□遊びと創作が広がるランドスケープ

- ・公園内に創作活動の場としてフォリーや既存茶室を点在させ、体験交流施設と一体的な利用を可能とします。
- ・現状の造成計画を参考に切土と盛土の体積が等しくなるように、ロータリーとアプローチ部分及び1.2mの段差が発生していた建築範囲を、ゆるやかな傾斜になるようにならして段差のない動線とします。



□多様な「通り道」が交差するランドスケープ

- ・人のための回遊動線や管理道はもちろん、雨水の道、生きものの道、風の道、など空間を流動させるさまざまな生態系の道を敷地全体に巡らせませす。それぞれの道が交差するところに、創作が生まれる種が芽生えるような結節点となることを目指します。
- ・森のアプローチの東側に、ロータリーを寄せることで建物の手前のスペースを広げ、また筆の里工房から創造広場まで、無理のない勾配と最小限の車との交錯で歩行者を誘導するメインアプローチとします。



■ [ウ] 象徴的機能

□自然を尊重した外観

- ・建物の高さを抑え屋根に傾斜をつけることで、道路側から見える建物の圧迫感を軽減し、山並みや自然を邪魔せずに尊重した外観とすることで、周囲と調和した風景を実現します。
- ・熊野町全体の高地状の盆地の豊かな自然の斜面におおらかに呼応する、斜面に沿った建築とします。



□人々の活動がつくりだす地域のシンボル

- ・山並みを背景とし、創造広場に溢れる人々の活動の風景を地域のシンボルと捉えます。
- ・町内外の人が日常的に自由な創作を行う公園のような場（創造広場）によって、地域の日常に根ざし、かつ筆祭りの際は新たな活動拠点として、熊野の文化の中心地となります。



□公園へと伝わる創造の活気

- ・公園側からは、大きな間口を通して創造広場を中心に展開されるさまざまな活動の活気が望め、公園に活気が伝わっていくことでシンボルとなる人々の活動を活発にします。



□駐車場からつながる展望デッキ

- ・駐車場から建物へのアプローチは屋上の展望デッキを介して屋内に引き込みます。アプローチと展望台は一体化しており訪れた人々が自然と熊野町の美しい景観を望むことができます。
- ・アプローチがFLより4.5m高い位置を通ることで、その下を通る搬入ルートと人の動線が直接交わらない計画とし、安全面に配慮しながら搬入出の効率を高めます。



□地域に根ざす建築

- ・地域の建材、木材、特産材を積極的に活用し、熊野町の林業に新たな活力を与えると同時に運搬コストやCO2排出量の削減につなげます。
- ・一部の材料製作や施工に住民参加を検討したりするなど、建物の成り立ちに住民が関わることで長く愛される場所作りを目指します。
- ・地域在来の植物や動物に配慮し、それらの生息地をつくり補うように計画。新たに植える植物は在来植物を考慮し種を選定することで地域の自然を守ります。

